

令和7年度「学校評価アンケート」結果（概況報告）

盛岡第二高等学校

【調査結果】

昨年度との比較

「肯定的な評価」（注1）の比率の過年度比較

質問項目	令和7年度調査			令和6年度調査		
	生徒	保護者	教員	生徒	保護者	教員
斜体・ゴシック体=65%未満 下線部=90%以上						
1 教育目標の周知	86%	82%	92%	86%	84%	89%
2 わかりやすい授業の実施	89%	77%	97%	89%	78%	94%
3 学習指導の徹底	87%		84%	86%		81%
4 家庭学習・課題の徹底	85%	62%	84%	83%	64%	81%
5 応用力のつく授業の実践	81%		71%	80%		69%
6 生活のきまりやマナーの遵守	70%	76%	58%	69%	80%	58%
7 生徒会活動や部活動の活発さ	95%	92%	95%	93%	91%	100%
8 勉強と部活動の両立	87%	78%	92%	86%	78%	92%
9 生徒への安心安全の支援	93%	79%	97%	92%	81%	97%
10 登下校時等の安全指導	91%	75%	97%	92%	77%	100%
11 希望進路の実現	95%	83%	95%	95%	84%	97%
12 卒業後を考えた指導	93%	78%	95%	94%	81%	97%
13 保護者と連携した進路指導	89%	71%	95%	91%	72%	100%
14 二高に入学して「良かった」	89%	90%		83%	89%	
15 安全・清潔な学習環境の保持	94%	94%	95%	96%	93%	97%
16 生徒の相談への丁寧な対応	93%	81%	97%	92%	84%	100%
17 生徒の居場所づくり	93%	87%	97%	90%	85%	97%
18 保護者と連携したPTA活動		77%	97%		74%	94%
19 地域への貢献	86%	78%	84%	82%	80%	89%
20 学校徴収金の額		94%	95%		91%	100%
21 特色あるコース選択	93%			92%		
22 法令遵守			97%			100%

三者の比較

R7 生徒・保護者・教員間の比較

生徒	生徒	保護者
一保護者	一教員	一教員
斜体・ゴシック体=±20以上の差 斜体=±15以上の差		
4%	-6%	-10%
12%	-8%	-20%
	3%	
23%	1%	-22%
	10%	
-6%	12%	18%
3%	0%	-3%
9%	-5%	-14%
14%	-4%	-18%
16%	-6%	-22%
12%	0%	-12%
15%	-2%	-17%
18%	-6%	-24%
-1%		
0%	-1%	-1%
12%	-4%	-16%
6%	-4%	-10%
		-20%
8%	2%	-6%
		-1%

(注1) 各項目をa～dの4段階で評価し、a「大いにそう思う」とb「そう思う」を「肯定的な評価」、c「あまり思わない」とd「全く思わない」を「否定的な評価」としている。

【分析1】 全体的な傾向について

肯定的評価が75%以上の項目が多い（生徒18/19、保護者16/18、教員18/20）。生徒評価では18項目で80%を超えた。肯定的評価が65%未満は2項目だった。最も肯定的な評価が低い項目は、項目6「生活のきまりやマナーの遵守」（教員58%）である。保護者の評価は、昨年と比較すると、18項目中6項目でポイントが増加し、11項目で減少した。本校の教育活動に対する保護者の満足度は決して高いとは言えない。

【分析2】 評価が高かった項目、評価が改善した項目について

「7 生徒会活動や部活動の活発さ」（生徒95% 保護者92% 教員95%） 例年、三者から高い評価を得ている。運動部、文化部、委員会活動などが活発に行われており、今年度は全国大会に出場する団体も多かった。

「15 安全・清潔な学習環境の保持」（生徒94% 保護者94% 教員95%） 例年、三者から高い評価を得ている。普段の清掃活動が行き届いていることや、施設・設備が丁寧に利用されていること、修繕箇所への速やかな対応などが評価されたものと考えられる。

「20 学校徴収金の額」（保護者94% 教員95%） 適正な金額とらえていただいたと考えられる。

【分析3】 評価が低かった項目、評価が分かれた項目について

「4 家庭学習・課題の徹底」（生徒85% 保護者62% 教員84%） 生徒と教員は、肯定的評価が80%以上であるが、保護者評価はワースト1位となっている。保護者は生徒や教員ほど家庭学習の取組状況に満足していないと考えられる。	三者面談や学年通信などを通じて、家庭学習の取組状況等を保護者の方に伝えるなど、家庭学習時間が増えるよう連携して取り組んでいく。
「5 応用力のつく授業の実践」（生徒81% 教員71%） 生徒、教員とも肯定的評価がワースト2位の項目である。講義形式などの生徒が受け身になる授業や、学んだことがどのような場面で活用されるか生徒に伝わっていないなど、机上だけの知識となっていることが考えられる。	身に付けた知識や技能などを活用する場面を授業の中で増やすなど、授業改善に取り組んでいく。
「6 生活のきまりやマナーの遵守」（生徒70% 保護者76% 教員58%） 生徒と教員は、ワースト1位、保護者はワースト4位の項目である。校内でのスマートフォンの使用や寒暖に合わせてジャージ登校を認めていることなどが影響しているものと考えられる。	TPOに合わせて、自分で考えてその場にふさわしい行動ができるよう働きかけていく。
「13 保護者と連携した進路指導」（生徒91% 保護者72% 教員100%） 保護者と生徒・教員との評価が分かれた項目である。保護者の評価が低いのは、保護者が学校からの進学情報提供や教員との連携強化、指導法等についての希望が満たされていないことが一因であると考えられる。教員が思うほど保護者は満足していないのではないか。	進路学習会への保護者の参加率向上、時宜を得た進路情報提供について、更に工夫していく。
「10 登下校時等の安全指導」（生徒91% 保護者75% 教員97%） 保護者と生徒・教員との評価が分かれた項目である。保護者は、生徒の登下校の様子がわからないため、安全が確保されているか不安に感じていると考えられる。今年度は、クマが学校周辺に頻繁に出没したこと、評価が低い要因と考えられる。	自然災害等を含めて、登下校時に危険が予想される場合は、白梅メール等を通じて保護者にも学校の対応を周知していく。
「2 わかりやすい授業の実施」（生徒89% 保護者77% 教員97%） 保護者と生徒・教員との評価が分かれた項目である。保護者には、普段の授業の様子が見えにくいこともあり評価が低くなっていると考えられる。	PTA総会や学校へ行こう週間などの授業公開日を積極的に周知するとともに、三者面談や学年通信などを通じて、授業の様子なども発信していきたい。
「18 PTA活動における保護者との交流・対話」（保護者77% 教員97%） 保護者の評価は項目別に比較するとワースト5位である。また、保護者と教員間の評価では20ポイントの開きがあるので、PTA活動に対する両者の意識には大きな隔たりがある。	PTA研修旅行は、参加人数が増加傾向にある。文化祭や挨拶運動などへの参加もご協力いただいている。今後のPTA活動のあり方について検討していく。